

インドネシアプロジェクトの新しい方向を探る 首都ジャカルタ都市部における 結核支援活動の10年間の成果

結核研究所 所長 石川 信克

日本の結核予防会はシール募金の益金による国際協力事業の一環として、1997年11月よりインドネシア結核予防会（PPTI）との共同プロジェクトを実施してきました。主な内容は、首都ジャカルタ市内の結核対策（DOTS）への技術的、資金的支援です。活動場所はPPTIに付随した胸部診療所（JRC）と市内スラム地区にあるパラデワ診療所（BC）の2カ所で、貧しい患者さん達への効果的なDOTSの促進を目指してきました。



DOTSにきた患者さん達

当初は国の結核対策も弱体で、都市部の貧しい患者への対策は殆どなされておらず、小規模ながら、このプロジェクトがパイオニア的な役割を果たしてきたといえます。

しかしこの数年間、国の対策も強化されつつあり、薬の配給や患者の診療記録や台帳の整備もされてきました。プロジェクト10年目を迎えるに当たり、その成果を見直し、今後のあり方を検討することになりました。

まず、昨年7月に太田正樹医師（結核研究所）が予備的調査を行い、11月には私が現地を訪問して視察をし、ソエディオ/PPTI事務局長はじめ現地側

との協議を行いました。

上記の2診療所では、過去10年間で6500人もの塗抹陽性患者の治療を行ってきました（表1）。活動は年々改善・向上しており、全体としては、毎年5000人に及ぶ結核を疑う患者の検査をし、900人の喀痰塗抹陽性患者を発見、塗抹陰性でもレントゲン等で1000人以上の結核患者を診断しました。これは



DOTSに通ってきたバイク運転手（右）、事務員（左）
調子はどんどん良くなっていると

ジャカルタで治療している全患者の2割程度に相当するということです。また治療成功率は90%と高い治療成績です（表2）。ただ、JRCとBCでは、差があり、患者発見数も治療率もBCの方が高くなっています。この理由には、JRCは街の中央部に位置し、患者の毎日の受診には困難があるとみられ、BCは地域に密着しており、住民との距離も近いことが挙げられます。検査室機能の評価としては、塗抹標本の再チェックによる読み間違い率で見ると、JRCは3%程度でやや高く、BCでは1%以下で低くなっている、両診療所の検査室スタッフの質という課題があります（表3）。

表1 共同プロジェクト患者発見数の推移（1998年～2005年）

人/年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年
有症状結核疑	3036	4130	4043	4452	4619	4423	4987	4899
塗抹陽性患者	516	866	799	769	841	860	909	869
塗抹陰性結核患者	776	984	656	1012	1070	1167	1282	1796

これらの活動の資金源は、日本のみでなく他の国や組織からの支援、自力の部分もありますが、日本の結核予防会が、上記の高い成果に大きな貢献をしてきたことは明らかです。特に貧しい患者への交通

費等の支援や、レントゲン検査や他の検査費用への支援も正確な診断に役立ってきたといえましょう。

印象的だったのは、バラデワ診療所に来る多くの若い患者さん達が、このクリニックにとっても感謝し、喜んでいる様子と、スタッフ達の熱意でした。これには、ここで長く活動してきたハリム医師の献身的な仕事振りも無視できないでしょう。貧しい地域に根ざし、さまざまなボランティア活動も動員したやり方は、結核予防会の真の姿であると感じました。

今後の継続の課題として、もう10年もやって、かなりの成果も出たので、共同プロジェクトをすること自体は意義があるとしても、漫然と同じ事を続けるのはいかなるものか、という質問を合同評価会で投げました。JRCはぜひ同じように続けてやりたい、BCはHIVエイズ患者が出始めたので、HIVと結核に関するプロジェクトがしたい、と提案をしてきました。

私としては、議論を踏まえ、来年（平成19年）に向けて、PPTIから新しい提案をしてくれるようお願いし、日本でも検討することにしました。個人的な印象としては、年間100万円程度の支援で、かなり成果も上がっているように思えるので、何らかの新しい視点とテーマで、活動が継続できればいいと思います。

表2 塗抹陽性患者の治療結果（1998年～2005年）

	計	ジャカルタ胸部診療所 (JRC)	バラデワ診療所 (BC)
患者合計	6429人	1411人	5018人
治療成功	90.2%	77.9%	93.2%
死亡	3.2%	2.8%	3.3%
治療失敗	0.9%	3.5%	0.4%
治療脱落	2.7%	5.3%	2.2%
転出	3.0%	10.7%	1.0%

表3 顕微鏡検査読み間違い率（2002年～2005年）

	ジャカルタ胸部診療所 (JRC)	バラデワ診療所 (BC)
2002年	3.0%	2.9%
2003年	3.3%	1.8%
2004年	2.6%	1.5%
2005年	3.3%	0.6%



薬局に空シートを見せる患者



洗濯する母親の傍で遊ぶ少女（漁港スラム）